

## 当センターの急性単球性白血病 (M5a) のデータの特徴

◎上田 万里子<sup>1)</sup>、川淵 章弘<sup>1)</sup>、杉本 圭輔<sup>1)</sup>、根来 利次<sup>1)</sup>、南 勇輝<sup>1)</sup>、横島 顕<sup>2)</sup>、岡田 由香里<sup>2)</sup>、谷内 亮水<sup>2)</sup>  
高知県高知市病院企業団立 高知医療センター SRL 検査室<sup>1)</sup>、高知県高知市病院企業団立 高知医療センター<sup>2)</sup>

【はじめに】t(9;11)(p22;q23)の多くは急性単球性白血病、または急性骨髄単球性白血病の形態を示す。11q23 転座の責任遺伝子は *KMT2A* (*MLL*) であり、*KMT2A* 蛋白は遺伝子転写を制御する蛋白複合体と共役するヒストンメチル化酵素である。t(9;11)(p22;q23)は *KMT2A* 遺伝子転座の中で最も高頻度に認められ、*MLL3* 遺伝子と融合遺伝子 *MLL3-KMT2A* を形成する。今回、メイギムザ染色や特殊染色の所見から M5a であり *MLL3-KMT2A* を有することが推察された症例をデータにまとめ検討したため報告する。

【症例】2013 年～2018 年の 16 例。年齢は 35 歳～90 歳で平均 65 歳。男女比は 4.3 : 1。

【検査所見】Pox 染色は陰性～やや強い陽性。ES 染色は陰性～強陽性（陰性～陽性の混在や弱陽性やほぼ強陽性）。ほぼ全例で核に歪みや凹みを認めた。マーカーでは CD13 は低値傾向で CD14 も低値であった。11q23 異常は CD14 を発現すると言われているが陰性であった。*KMT2A* 転座 38% (6/16) ・ *MLL3-KMT2A* 陽性率 25% (4/16) 。*MLL3-KMT2A* の症例で Pox 染色は 4 例全例

が陰性、ES 染色は 4 例全例が強陽性であった。

【まとめ】成人の *MLL3-KMT2A* 陽性例は Pox 染色が陰性で ES 染色は強陽性(全ての細胞)で形態的には AML 様ではなく、単芽球や前単球が多く認められ大型で広い細胞質を持ち、微細なアズール顆粒や空胞を持っており、前単球の核は不整で歪みや凹みを持っていることが多いと思われる。t(9;11)(p22;q23)を有する AML は予後中間群に属し、他の *KMT2A* 転座を有する AML よりも予後はよい。芽球比率 20%未満で t(9;11)(p22;q23)を有する症例については AML への進展を慎重に観察する必要がある。症例数が少ないため、他の急性単球性白血病についても形態や特殊染色、*MLL3-KMT2A* の有無の関係を現在検討中である。

高知医療センター SRL 検査室 088-837-6252